



# 同窓会だより

## 同窓会のエトセトラ

副会長 野内 昭宏  
専務理事 内藤 義隆

### 1. 慶事

前回の歯学部ニュース以降、お二人の教授就任がありましたのでご紹介します。

平賀 徹 先生（歯学科22期生） 松本歯科大学 教授就任 平成29年12月。

田中 みか子 先生（歯学科20期生） 明倫短期大学 教授就任 平成30年4月。

また、歯学科48期生の熊田茉彩さんにおかれましては、在学期間を通じて極めて優秀な学業成績を修めたとのことで学長による学生表彰を受けられました。

当同窓会からも、皆様方に祝意をお伝えしました。益々のご発展をお祈りしています。



田中教授（左）にお祝いを渡す有松会長



熊田さんにお祝いを渡す有松会長

### 2. 歯学科48期生、口腔生命福祉学科11期生の ネームプレートを掲示

歯学部のご厚意の下、歴代の卒業生のネームプ



平賀教授（右）にお祝いを渡す横林長野県支部長





プレートを歯学部4階の渡り廊下に設置しております。

この春に卒業した歯学科48期生、口腔生命福祉学科11期生のネームプレートも卒業式直前に設置しました。ご卒業をお祝い申し上げるとともに、同窓会のメンバーとして歓迎いたします。

### 3. 同窓会説明会開催（平成30年4月5日）

歯学科6年生、口腔生命福祉学科4年生の皆さんを対象として、同窓会説明会を開催し、同窓会活動について役員が説明をしてきました。

その後の懇親会では、同窓会に対する質問や、卒業後・研修修了後の就職などへの疑問などにお答えしながら、親睦を深めました。



### 4. 第9回研修歯科医支援塾が開催されました。（平成30年5月17日）

新大病院で研修されている研修歯科医を対象として、研修修了後の進路決定に資するようにと、若手の先生の話聞く会を設けています。

今回の講師は高野遼平先生（歯学科38期、新潟市西蒲区開業）と山田ひとみ先生（歯学科40期、新潟市秋葉区 病院勤務）のお二人。参加された約30名の研修歯科医の先生方に向けて、お二人の講師の先生から熱く語っていただきました。

この会も、過去に研修歯科医として支援塾を受講して道を開いていかれた方々が、今度は講師となって新研修歯科医へアドバイスをしてくれます。歯科医師としてどのように歩いていくかを定める大事な時期ですので、良い出会いをして頂きたいと願うと同時に、このように、新潟大学歯学部並びに歯学部同窓会の新しい伝統が形成されてきていることは大変喜ばしいことと思っております。





## 新潟大学歯学部同窓会学術セミナーⅢ「地域活動歯科衛生士としての取り組み」を受講して

口腔生命福祉学科7期生 山口 洋 美

平成30年2月18日に開催された新潟大学歯学部同窓会学術セミナーⅢ「地域活動歯科衛生士としての取り組み」を受講させていただきました。



今回のセミナーは、新潟県歯科衛生士会柏崎ブロック長 船岡陽子先生による「地域活動歯科衛生士としての取り組み」というテーマでした。

地域活動歯科衛生士の活動、震災時の避難所・福祉避難所における歯科衛生士の活動等を様々な事例を通して学ぶことができました。

「地域活動歯科衛生士」とは、地域における保健・医療・福祉の各分野の歯科関連事業に携わり、地域の方々の健康づくりを支援する活動を行っている歯科衛生士です。



具体的には、保健分野では母子検診等、医療・福祉分野では退院時カンファレンスやサービス担当者会議への参加、在宅・病院・施設への訪問口腔ケアやそれに伴う加算の算定に携わっているそうです。

様々な活動の事例として、在宅における重度要介護・障がい者を対象とした多職種連携による訪問口腔ケアと口腔機能維持管理加算カンファレンスへの参加、柏崎市における自立支援のためのケア会議への出席、柏崎市健康推進員協議会における介護予防事業の事例を紹介いただきました。



先生が地域で活動する原点となった出来事が中越地震・中越沖地震だったそうです。震災時の避難所・福祉避難所における歯科衛生士の活動として、中越地震・中越沖地震の際の歯科支援活動についてのお話がありました。

震災時に歯科的介入が必要とされた方に対し、避難所・福祉避難所での口腔ケア等の支援の後も中長期的歯科保健支援活動として継続された支援が行われたそうです。その後、居宅療養管理指導



\*\*\*\*\*

へと継続される方もいらっしゃるそうです。震災時のみの支援活動ではなく、継続的に支援が行われる体制があるのだとわかりました。

病院から在宅へ移行される際の退院時カンファレンス参加や自立支援のためのケア会議出席のお話から、常に介入した方の状態・状況の変化があってもそれに応じて継続された歯科支援を行うことができる体制づくりを行っているのだと感じました。それを行うにあたり、様々な機関・職種と連携が必要であり、多職種連携で活動を行うためには保健・医療・福祉の知識はもちろん、行政のサービス等、実に様々な知識が必要だと感じました。

今回のセミナーを通して、自分が歯科衛生士として業務を行う上で大変参考になるお話を伺うことができました。今回学んだ事を日々の業務に活かす事ができるよう努めていきたいです。

最後に、船岡先生、同窓会関係者の先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。



\*\*\*\*\*

## 同窓会総会講演会を聴講して

歯学科25期生 小田 陽平

4月22日、4月にしてはやけに暑い日に同窓会総会が開催され、同時に開催された講演会で歯科薬理学の佐伯万騎男教授より「慢性疼痛に効く新しい鎮痛剤プレガバリンの知識」との演題の講演を聴講した。プレガバリン（商品名リリカ）で、自分も処方する機会がそれなりにあり、薬理学的立場から、かつ、臨床の現場に即した講義は非常にわかりやすく明日からの診療にとても有用だった。

神経障害性疼痛、とは最近ではテレビのコマーシャルでも聞く言葉で、耳に入ればまあそんなものか、と理解したような気になれる（うまい言葉を考えたものだと思います）言葉だが、奥は非常に深い。歯科医師が最もよく出すクスリはNSAIDsに代表される鎮痛薬だと思うが、その一方でNSAIDsが奏功しない痛み、というのも確実に経験する。そんな痛みに対しても有効かもしれないプレガバリンについて、その誕生秘話は偶然と努力の賜物の重なりである、というエピソードは大変興味深く、また、佐伯先生ご自身の「痛みの経験」を交えたユーモラスな語り口で、大変わかりやすくこの薬剤の詳細を解説していただいた。講演の後半では実際の臨床ガイドラインも引用しながら、実臨床で使える知識を丁寧に解説していただいた。特に興味深かったのは「リリカは急に効く薬ではない、1週間くらいかかる」ということである。とかく「痛み止め」はすぐに効いてもらいたい種類の薬であり、患者さんもすぐに痛みを何とかしたいと思っている人が多いが、この講演を聞いて基礎的なところから、それがなぜなのか、作用機序もよく納得して理解することができた。

以前から、がん患者のペインコントロールにおいて（もちろんメインはオピオイドとなるが）、「上手な補助薬の使い方」は自分にとっていつも気になっているテーマであった。癌性疼痛にとも



なっしてしばしば「(オピオイドで解決しない) 鈍い違和感」や「締め付けられるような、しびれるような感覚」の訴えを受けるが、プレガバリンはそれらの対策にも有効と思われる。実際に講演聴講後に早速自分の患者さんにも処方したが、「しびれ感」の改善を得ることができ、患者さんにも喜んでいただいた。

医歯薬学は日進月歩でレベルアップしており、常にトピックにアンテナを張り、取捨選択して自分の日常臨床に生かしていくことが求められる。今回の講演後の質疑応答も非常に活発で、同窓会総会に出席したことで、自分の中のそのようなマインドが刺激されたことに感謝した一日であった。



## 新潟大学歯学部同窓会学術セミナーⅠ「最期まで美味しく食べられることー義歯治療から嚥下障害治療までー」に参加して

歯学科37期生 歯周診断・再建学分野  
野中（青木）由香莉



今回、37期の同期が上記の講演をすると聞き、参加させていただきました。

訪問歯科に特化した医院を札幌で開業したという彼女は、学生の頃に受けた特別講義の1枚のスライドを原点に、ここまで歩んできたとのことでした。確かに、その特別講義は興味深かったこと





を私も覚えているものの、私にとってはもはや10年以上前の記憶、印象のみの思い出に過ぎず、「なぜコロッケが食べられないのだろう」という、その時の疑問を、その時の情熱を、忘れずに進んできたという彼女の姿勢は、まさに「初志貫徹」そのものでした。そしてまた、そのスライドを、落ち込んだ時、悩んだ時の糧としている、という言葉が、同期だからこそわかる、ここまでのそれぞれの挫折と苦悩と努力を思わせ、一人感慨に耽ったのでした。学生実習でも、彼女が年配の方に対して温かく接していたことを思い出し、現在も、一人ひとりの患者様の人生に寄り添いながら真摯に向き合う姿が、症例の一つ一つからあふれる情熱からも容易に想像できました。

学生の頃から常に何事にも一生懸命だった彼女らしさに溢れる、非常に熱意に満ちた素晴らしい講義でした。吸着義歯の理論を、訪問歯科に適するように独自にアレンジした点、そしてまた食べ

ることを義歯から嚥下まで総合的に診ている点が、評価されているのだと思います。大学で歯周病学を専門としている自身としても、義歯製作のポイントや、嚥下の評価の実際は、日常の臨床の際の疑問に答える内容で、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。エッセンスに凝縮された90分の講義はとても短く感じ、地元北海道への愛、そして人生の先輩方である患者様への愛情をもって、これからも地域医療に貢献する彼女の講義を、また是非とも聞きたい、と思いました。

同期の講演を、歯学部の講堂で聞くということ自体が、非常に感慨深く、また誇らしく思いました。同じ講義室からスタートし、仕事や子育てなどそれぞれの道を歩む同期の面々と講義の後に話しながら、少し落ち込んだり、反省したり、そして何よりまた明日から頑張ろうという活力を頂けた、貴重な機会となりました。

